JA鳥取県人権・同和問題対策推進本部からのお知らせ

JAグループ鳥取では人権・同和問題に対して「第９次（2024～2026 年度）ＪＡ鳥取県人権・同和問題対策推進方針」をもとに、差別と偏見のない社会の実現のために取り組んでいきます。
組合員の方はもとより、地域住民の方にも人権・同和問題が身近な存在であることに気づいてもらうため、第９次期間中（2024～2026 年度）、人権・同和問題に対する啓発記事を年４回提供します。

第45回 「フェーズフリー」で守る、災害時の人権と暮らし

地震や台風など災害の多い日本では、障がいのある人や高齢者、日本語での情報伝達に支障のある住民などが情報や支援から取り残されやすい現実があります。災害時に誰もが安全に生きる権利を守るには、日常から包摂的な防災を考えることが必要です。

その新しい発想として注目されているのが「フェーズフリー」。フェーズフリーとは、「日常（平時）」と「非常時」の境界をなくし、普段の暮らしを豊かにするモノやサービスが、もしもの時にも命や生活を守れるようにする考え方です。
例えば、高齢者や介護者の負担を減らす手動ラップ式簡易トイレ「ラップポン」があります。水を使わず清潔に保てる仕組みで、平時は介護される人の尊厳を守り、災害時には衛生を確保します。液体ミルクは育児の負担を軽くしながら、災害時にも安全に授乳できる日常品として広がっています。フェーズフリーは、「コストをかけて備えるのではなく、無意識のうちに日々の暮らしが防災になっている状態が理想」です。

フェーズフリーは、『楽しい・嬉しい・安心できる』という暮らしやすさを保ちながら、誰もが備えられる状況を実現すること。それが非常時の命や尊厳を守ることにつながります。「フェーズフリー」は、だれも取り残さない社会の実現を実践するSDGsにつながる取り組みです。